

ウゴツクバネウツギ、アクシバ、タニウツギ、ツルアリドウシ、ショウジョウスグなど裏日本要素の種により区分されるコナラ林である。

ウゴツクバネウツギコナラ群落は、秋田から山形（池田の資料）、新潟まで認められたが、それ以西は資料がなく不明である。これは、いわゆる裏日本の多雪型の気候に適応したコナラ林であると考えられる。特殊な立地条件および明確な標徴種、区分種をもっており、ウゴツクバネウツギコナラ群落としてもさしつかえないものと考えられる。

なお、第2報で述べた田沢湖付近のハクウンボクコナラ群落は、その後の検討の結果、この群落のオクチョウジザクラ亜群集に含まれる1つのタイプと考えられる。

(4) サワシバーミズナラ群集（コナラ亜群集）

エゾミヤコザサ、チョウセンゴシシ、コンロンソウ、サッポロスゲ、ヨブスマンらなど裏日本および北日本要素の種で区分される植分である。このコナラ林は、イヌシデーコナラ群団の標徴種、区分種は有しておらず、上記(1)～(3)のコナラ林とは全く異質のものである。コナラの分布上からみて、コナラの北限に近い地域の林分であり、遠山等（1978）は新たにミズナラ群団を設けて、その中に包含している。これは、遠山、持田（1978）が、北海道の胆振で認めたコナラ林である。

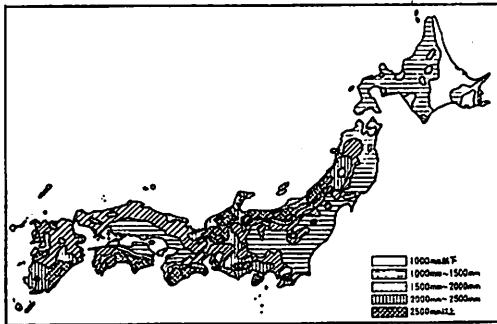


Fig 5 年降水量分布図(1921～1950年, 単位mm)
(和達清夫「日本の気候」p-93より)

〔植物ニュース〕66. カワラアカザ *Chenopodium acuminatum* Willd. var. *virgatum* Miq.

一昨年、松本塩尻間奈良井川堤防上に、自動車のバイパス線ができた。翌年この道を通ってみて、驚いたことに、この道路沿いの両側、隙間もなくカワラアカザの純群落になっていた。この堤防付近は別に異った特徴もない雑草やニセアカシアの群落でカ

VI ま と め

1 本調査は、1978年に調査した資料を中心に、最終段階で既報告書の資料と比較検討したものである。

2 東日本ブナクラスのコナラ林は、大きく次の三のタイプにまとめられた。

- (1) クリーコナラ群集……貧雨冷涼な内陸気候区域型のコナラ林。
- (2) 典型群集……準裏日本気候区（鈴木1962）型コナラ林。
- (3) ウゴツクバネウツギコナラ群落……裏日本冬期多雪型のコナラ林。

3 ブナクラス

コナラ・ミズナラオーダー

イヌシデー、コナラ群団

グリーンコナラ群集

典型群集

ウゴツクバネウツギコナラ群落

ミズナラ群団

サワシバーミズナラ群集

コナラ亜群集

参 考 文 献

- 宮脇昭他 1977 上越地方の植生調査 東京
—— 佐々木寧 1980 下北半島周辺の植生 横浜
奥田重俊 1978 弥彦、角田地域の植生 野村総研
越前谷康 1975 大滝山生活環境保全林整備計画
報告書 秋田県
大場達之 1973 滑津川上流の植生
遠山三樹夫、持田幸良 1978 北海道胆振東部の
落葉広葉樹林 東北大
相沢陽一 1977 新潟県中部の2次林と原生林
上越生態研
羽田健三、宮脇昭 1979 長野県の現存植生長野県
宮脇昭他 1978 日本植生便覧 至文堂
鈴木秀夫 1977 氷河期の気候 古今書院
池田弘子 未発表 能代市周辺の植生（仮称）
—— “ 宮城県女川周辺の植生（仮称）
—— “ 福島県のコナラの Auf.

ワラアカザもそう多いことはなかった。こうした新設道路わきは、今までならふつつヒメジョオンやアレチマツヨイグサ、ブタクサ等もかなり姿を見せるはずと思われるのに、在来植物の単相群落になったという点、帰化植物が衰退に向っている今、時代的意義のようなものを感じる。（浅川富雄）